

昔、下野の国①にある阿曾沼という沼の近くに、一人の狩人がいました。

ある日、猟に出かけましたが、何の獲物もありませんでした。ところが、その帰り道、阿曾沼のほとりを通った時、二羽のおしどりが、いっしょに泳いでいました。

昔から、おしどりを猟で撃つのはよくない、と言われていました。けれど、男は今日は朝から何も獲物がなかったので、おしどりに向けて矢を射ました。矢は、オスのおしどりを射ました。メスのほうは逃げて、対岸の葦のしげみ②の中に隠れて、見えなくなっていました。

狩人は、オスのおしどりを持って家に帰り、それを土間の台の上に置いておきました。

その夜、狩人が寝ていると、服装のさっぱりした、たいへんきれいな女の人が部屋へ入って来て、狩人のそばに立ちました。

1 現在の栃木縣。

2 草木茂盛的な地方。

本文摘録自寂天文化・二〇一七・一〇
『樂讀樂讀日本民間故事選』
今泉江利子・須永賢一・津田勤子編著



そして、悲しそうに泣き始めました。とても悲しそうに泣くので、それを聞いていた狩人のほうも何だか悲しくなってきました。女の人は、泣きながら狩人に、

「どうして、あなたは、あんなにひどいことをしたんですか。どうして私の夫を殺してしまったんですか。夫は何か悪いことをしましたか」

と、言いました。狩人はびっくりして、

「わしが？あんたの夫を殺した？そんなことしていない」と、言いました。

「いいえ、確かに、今日、殺しましたよ。私たちが夫婦は、仲良く暮らしていたのに。あなたは夫を殺してしまいました。夫が、何か

悪いことをしましたか。あなたは、どんなひどいことをしたか、ご存知ですか」

「うそだ！そんなこと、していない。わしは人を殺していない」

と、狩人はきっぱりと言いました。



① 菰。水草の一種。

「でも、あなたは殺したのです。夫だけじゃありません、この私もあなたに殺されたのです。私は、夫がいないと生きていられないのですから」
 女の人は、そう言い終り、倒れるようにそこに座って、また悲しそうに泣きました。その後、ふらふらと立ち上がり、小さい声で歌を歌い始めました。その歌はこんな内容でした。

日が暮れると

私たちは

お互いに呼び合って

いつもいっしょに阿曾沼の

まこも草の隙間にある家に

帰りました

今はその家に



わたし
私はたった一人で

いなければならぬ

ああ この悲しさ

何と言えはいいでしょう

おんな
女の人は歌い終り、狩人の部屋から出て行きました

た。その後ろ姿は女の人ではなくて、メスのおしどり

した。狩人は胸が痛くなるような深い悲しみを感しながら、また眠りました。

翌朝、狩人の家の土間には、メスのおしどりの死体がありました。昨日射止めた

スのおしどりの体の上に重なるように、死んでいました。自分の嘴を使って、自

分の胸を破って死んだのでした。

狩人は、もう二度と生き物を殺さないと決めました。そして、髪を剃って、お坊

さんになり、全国を行脚する旅を始めました。【栃木県のお話】



鴛鴦

從前在下野國一

個叫做阿曾沼的沼澤附近，住著一位獵人。有一天獵人出去打獵卻一無所獲。然而在回家途中，當他路過阿曾沼的沼澤邊時，看見一對鴛鴦正悠游著。

自古以來，大家都認為獵鴛鴦是不好的，但是男子今天沒獵到任何獵物，於是就放箭射了鴛鴦。箭射穿了公鴛鴦，母鴛鴦則是逃入對岸的蘆葦叢中，消失了蹤影。

男子提著公鴛鴦回家後，就把牠先放在泥地房台子上。當天夜裡獵人一入睡，一位打扮整齊，姿容貌美的女子進入房裡，站在他的枕頭旁開始悲傷地哭了起來。這女子哭得太傷



心，聽得獵人也傷心了起來。

女子啜泣著說：「你為什麼要做那麼殘忍的事？為什麼殺了我丈夫？我丈夫到底做了什麼壞事？」

男子驚說：「我嗎？你說我殺了你丈夫？我不記得有這麼一回事。」

「不！今天你確實是殺了我丈夫。我們兩人感情和睦地生活著，你卻殺了我丈夫，把一切都毀了。我丈夫到底做了什麼壞事呢？你可知道你做了多麼殘忍的事？」

男子斬釘截鐵地說：「沒那回事，絕對沒那回事！我沒殺人！」



「可是，的確是你殺的。不只是我丈夫，你連我也殺了。因為沒有了丈夫我就無法活下去。」

女子說完便倒坐在那裡，又傷心地啜泣起來。接著她搖搖晃晃地站了起來，吟誦了一首詩歌。詩歌的內容是：

黃昏時刻 我倆互相呼喚

經常一起回去阿曾沼的菰草蔭處的家

如今那個家只有我一個人孤零零地守著

啊！這種悲傷該如何說？

女子吟誦完後就走出獵人家屋外，那背影並不是女子而是母鴛鴦！男子感到一陣揪心的悲傷，又沉沉入睡了。

隔天早上獵人在家裡發現母鴛鴦的屍體，

疊覆在昨日家裡的公鴛鴦身上，已經死了。母鴛鴦用自己的嘴咬破自己的胸膛死了。

男子發誓從今以後再也不殺生，剃了髮出家當和尚，雲遊四方各國。

